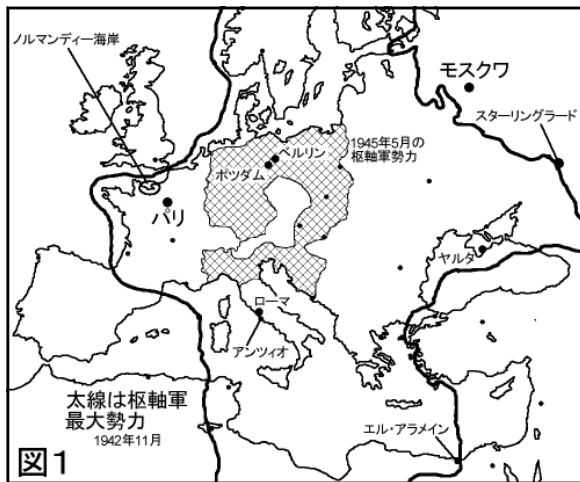


連合軍の反抗

- 1) ヨーロッパ戦線では、1943年2月の【1:
太平洋戦域では、1943年2月の【2:



- 】攻防戦 ※1 に勝利したソ連軍が反撃に転じた。図1参照。
】攻防戦 ※2 から米軍は攻勢に転じた。

※1 スターリングラードは現在のヴォルゴグラード。独軍に包囲されていたが、1942年11月ソ連軍が逆包囲、ヒトラーから降伏を禁じられていたドイツ軍精鋭30万の大半が死亡。結局9万人が降伏。

※2 このとき大本営は初めて「転進」という表現を使った。なお、「玉砕」という表現を初めて使ったのは1943年5月12日のアッツ島守備隊全滅の時。

- 2) 1942年11月、アイゼンハワー指揮下の連合軍は北アフリカに上陸。モントゴメリー(英)は、エル・アラメインの戦いでロンメル(独)を破る。

- 3) 1943年7月、連合軍、【3:
】を制圧。国王に解任され【4:
】政権崩壊。9月、連合軍はイタリア本土に上陸 ※3。バドリオ政権は無条件降伏。

※3 アンツィオ上陸の日、イギリス軍は海岸の地雷原をさまよう6歳の少女を保護。母親がみつからず10日も英軍と行動をともにした後、砲撃で死亡。アンツィオにはフルネームすら不明の少女アンジェリータの銅像が建っている。戦争は常に最も弱い者に最も苛酷である。その後も世界では無数のアンジェリータたちが殺されている。

ヨーロッパにおける第二次世界大戦の終結

連合国による戦争処理(戦後構想)をテーマとする会談は6回もあった 後掲IからVI I~IVは途中経過省略

I	1941年8月	大西洋上会談	[米・英]	「大西洋憲章」発表
II	1943年1月~3月	カサブランカ会談	[米・英]	内容省略
III	1943年11月	【5: カイロ宣言の内容は日本の戦後処理	[米・英・中]	カイロ宣言発表 ①無条件降伏 ②1914年以降奪った太平洋の島々の放棄 ③中国東北部と台湾を中国に返還 ④朝鮮の独立
IV	1943年11月	【6: スターリンは西部方面からの本格的な反攻作戦(第二戦線)を米英に要求、ローズヴェルトは北フランスへの上陸作戦を約束した。	[米・英・ソ]	

- 1) 1944年6月6日、米英軍、【7:
】 ※3 に成功。 図1参照。

最高司令官のはアイゼンハワーは、戦後、NATO軍最高司令官を経て第34代大統領になっている。

当日のBBC放送のMC(要旨):本日は「Dデイ」なり。激しい戦闘が予想されますが、勝利は必ず私たちのものです。皆様のご無事を祈ります。

※3 作戦名は「オーバーロード」。米映画”The Longest Day”(1962邦題「史上最大の作戦」)や”Saving Private Ryan”(1998邦題「プライベート・ライアン」)で映像化されている。必死に上陸阻止をはかるドイツ軍の反撃で、この作戦の死亡率は非常に高かった。なお、上陸地点はかつての「ノルマンディー公国」の故地(バスノルマンディー)である。この作戦成功により、ドイツ軍は西から英米軍、東からソ連軍に攻撃されることとなった。これを上回る規模の上陸作戦は行われていない。

《蛇足》著者が若い頃、定年間際の校長は敗戦時に10歳の時に「満州」から引き揚げの途中で人間が撃ち殺される瞬間を目撃した。早速、映画”Saving Private Ryan”を観に行った校長は「鈴木君、観たかねあの洋画。弾に当たって死ぬ瞬間が実にリアルで、本当に人は撃たれるとあんな風に亡くなるんだよ。私は実際に見たんだから。…」と話してくださった。かつて、校長と教員は時にはこんな話をする余裕があったのです。

- 2) 1944年8月25日、パリ解放 【8:
】を中心に臨時政府成立。

パリでは連合軍の接近に呼応してレジスタンス組織が武装蜂起したことも一因となって、ドイツ軍は自ら撤退した。このため、パリは地上戦による破壊を免れた。市民自らがパリを解放したという自負は、その後もフランス国民の大きな誇りとなっている。ヒトラーはパリ廃墟命令を出し、部下に「Brennt Paris?(パリは燃えているか?)」と3回にわたって叫んだという。そんな命令は実行不可能だった。

D=ゴールは8月26日に自由フランス軍を率いてパリに入城、エトワール凱旋門からノートルダム大聖堂まで、ドイツ軍の残党が放つ銃弾を気にすることなく凱旋パレードを行い、シャンゼリゼ通りを埋め尽くしたパリ市民から熱烈な喝采を浴びた。

29日には、米第28歩兵師団によるパレードが行われた。この時には都市は既に安全な状態となっていた。アメリカ軍と自由フランス軍の車両がパリの道路を進むと、喜びに満ちた群集が彼らを歓迎した。以後、毎年8月25日にはパリ解放を記念する式典が開かれる。

ドイツ軍降伏を知ったパリ市民はナチスやヴィシー政権の同調者である「コラボラシオン(協力者)」狩りに乗りだし、次々に処刑・殺害を行っていった。またドイツ軍兵士の愛人であったりするなど、ドイツに近しいとみられたフランス人女性は髪を刈られさらし者にされた。誤認されて被害に遭う市民も多数おり、争乱はしばらく治まらなかった。

3) 1944年、ソ連軍は【9:】に侵攻

- ①ポーランド侵攻時には不幸な事態が起きた。これが戦後米英とソ連の対立の原因の一つになった。
ソ連軍の侵攻間近と判断して、ロンドンの亡命政権の指示でワルシャワで市民が蜂起。イギリスの影響力増大を恐れたソ連はこれに協力せず、ソ連軍は侵攻せず。反乱はドイツ軍に鎮圧され、20万人もの犠牲者を出した。
- ②チャーチルはスターリンと会談し勢力分割を行った。
ルーマニア、ブルガリアでのソ連の優位、ギリシアでのイギリスの優位を相互に確認
1945年4月、米英軍に先駆けて【10:】に突入したのはソ連軍である。

V	1945年2月	【11:】 [米・英・ソ]	ヤルタの位置は図1参照
		ローズヴェルト (4月に死亡)・チャーチル・スターリン	
		ヤルタ協定：ポーランド、ユーゴに新政権樹立 戦後ドイツ：①4国管理 ②戦犯裁判 ③非武装化	
		ヤルタ協定中の秘密条項 (要点) =ソ連は <u>ドイツ降伏の日から2ヶ月または3ヶ月後の正応答日</u> に、 <u>連合国の立場</u> で日本に宣戦布告する。【12:】、はソ連に引き渡される。北方領土問題の根源！	
		ヤルタ会談時の非公式の場において、アメリカは執拗にソ連の対日参戦を求めた。ヤルタ会談当時のアメリカの判断は「 <u>日本の継戦能力はまだあり</u> 日本を降伏させるには、九十九里浜に上陸して関東平野を横断する <u>地上戦が必要である</u> 」。そうだと仮定すると、「満州国」と朝鮮に展開する日本軍残存兵力が本土決戦に戻ってこれないようにする必要があるからだ。 <u>波線部</u> が不正確であることは後日判明する。	

- 4) 1945年4月30日 ヒトラー自決
- 1945年5月2日 ソ連軍、ベルリンを占領
- 1945年5月7日 **ドイツ無条件降伏** ヨーロッパにおける第二次世界大戦終結！
これ以降は日本だけが戦争をつづけている。

ユダヤ系ドイツ人のアンネ=フランクは一家でオランダに移住していたが、ここもナチに占領されユダヤ人の強制収容所送りが行われた。1942.7.6に家族と隠れ家に入り、日記にはノルマンディー上陸作戦の勝利と解放への期待が記されているが、パリ解放の3週間前の1944.8.4隠れ家を発見され収容所に送られ日記はここで終わる。最終的にドイツ国内のベルゲン・ベルゼン収容所に送られ、不衛生な環境からチフスに罹患し、2月末に姉マルゴットが19歳で、3月上旬アンネが15歳で亡くなった。ソ連軍がベルリンを制圧するのは5月2日だが、この収容所はイギリス軍によって4月15日に解放された。解放後も蔓延するチフスはイギリス軍の手にも負えず更に1万5千人が死亡した。解放があと1カ月と少し早ければアンネは生存した可能性があるが史実は冷酷である。協力者ミープ=ヒースが立ち入り禁止の隠れ家跡からアンネの日記を発見、秘匿した。戦後、日記は唯一生き残った父、オットー=フランクに渡された。父は出版を決意し、世界中の言語に訳され読まれ続けている。

VI	【13:】	1945年7月～8月 [米・英・ソ]	ポツダムの位置は図1参照
		トルーマン・チャーチル (途中でアトリーに交替)・スターリン	
		①ドイツの戦後処理・国際管理に関する協定 ②対日処置：降伏の条件、管理方針	
		ポツダム宣言 にまとめられ、 1945年7月26日に発せられた。 アメリカ、イギリス、中国の対日共同宣言 ※4	
		降伏の条件として軍国主義の永久除去、連合国による日本占領、日本の主権の本州・北海道・九州・四国への制限、軍隊の完全武装解除、戦争犯罪人の処罰と民主化・基本的入権の尊重、賠償の実施と軍需産業の禁止をあげ、平和的政府樹立後の占領軍の撤退を約している。そのためにすみやかなる軍隊の無条件降伏を要求している。	

※4 中国の同意も得ているが抗日戦争で蒋介石はポツダムに来れないので署名したことになる。もちろんソ連も同意したが、ソ連はこの時点では日本と戦争していないので署名していない。
日本の降伏についてはNo.189で述べる。

2016 青山学院大学 (抜粋・改変)

(前半割愛) 第二次世界大戦におけるヨーロッパの戦局は、1943年に転換し、アメリカ・ソ連・イギリスの連合国軍は攻勢を強めた。東部では、(8)の戦いに勝利したソ連軍が反撃に転じた。1944年には、アメリカ・イギリス連合軍が(9)を果たし、ドイツとその占領地は東西から挟撃される事態になった。並行して連合国首脳は会談を重ねて戦後構想を練り上げた。すでに1941年8月に、イギリスとアメリカの首脳が会談し、第二次世界大戦後の世界を建設する基本方針ともいべき(10)が発表されていたが、1943年のカイロ会談では、ローズベルト・チャーチル・(11)が討議するなど、その後も世界の各地で会談が持たれた。1945年2月のローズベルト・チャーチル・(12)の間での会談、また同年7～8月の(13)会談などである。そこでは、戦後体制についての本格的な会合がもたれ、日本に無条件降伏を要求する(13)宣言が出された。1945年4～6月の(14)で、国際連合憲章が採択され、国際連合が同年10月に発足した。国際連合は、国際連盟が第二次世界大戦を防止できなかった反省から、総会での多数決制を取り入れ、安全保障理事会の権限を強化して、(15)に拒否権を与えた。

問 空欄に適語を記せ。(原問は選択式)

正解 8:スターリングラード 9:ノルマンディー上陸 10:大西洋憲章 11:蒋介石 12:スターリン 13:ポツダム 14:サンフランシスコ会議
15:イギリス、アメリカ、フランス、ソ連、中国の五大国